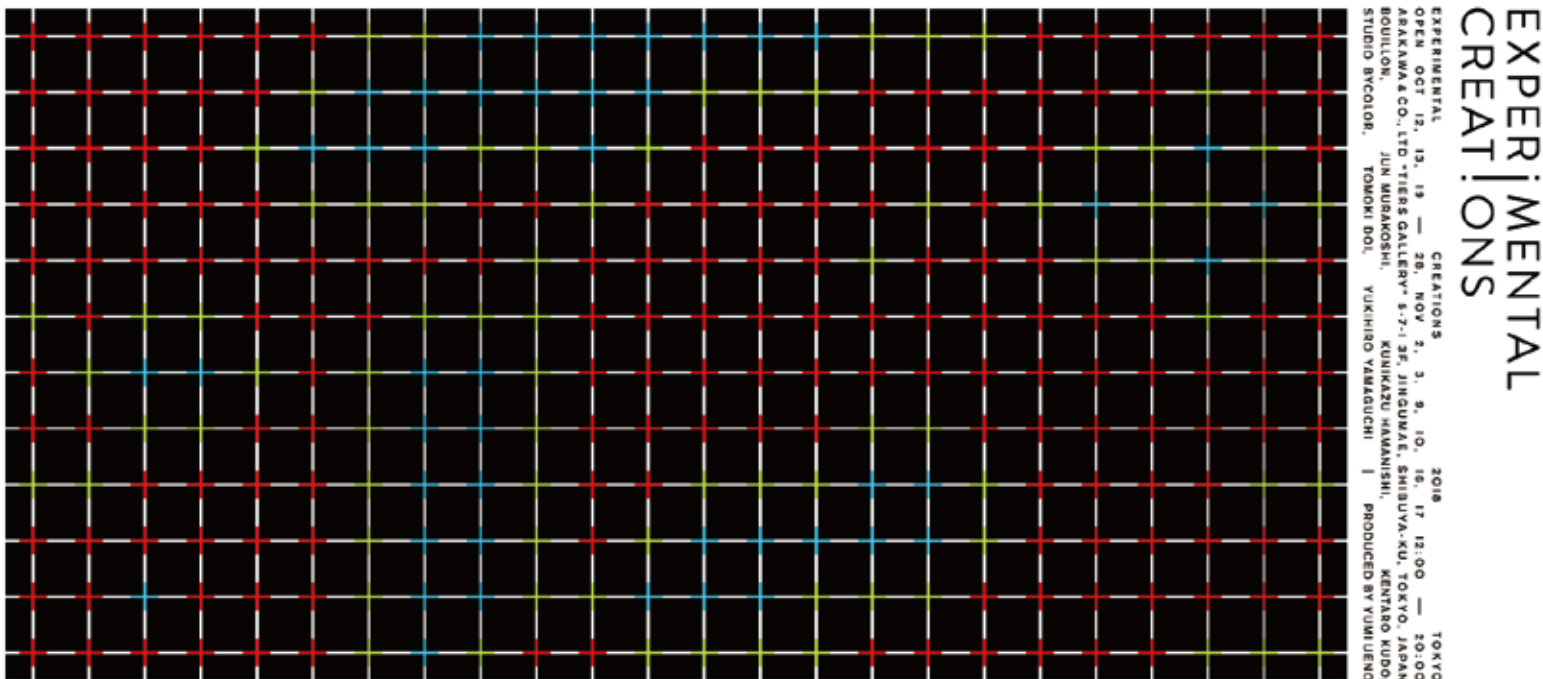


マテリアル実験やクリエイションのプロセスにフォーカスしたプロジェクト  
「Experimental Creations 2018 Tokyo」開催



マテリアル実験やクリエイションのプロセスにフォーカスしたプロジェクト「Experimental Creations」は今秋「TIERS GALLERY」においてデザイナーによる作品を発表します。いま活躍するプロダクト・インテリアデザイナー7組が作品を発表。Bouillon、村越淳、濱西邦和、工藤健太郎、秋山かおり、土井智喜、山口幸宏が参加します。

今回は、ワンタッチで任意の位置に固定することができるワイヤー固定金具「アラカワグリップ」を用い、新しい使い方の実験を行います。アラカワグリップの特性を理解し、クリエイティブな発想で従来の使用用途とは異なる新たなデザインの可能性を探ります。

#### What is Experimental Creations

たくさんのデザインが溢れ差別化することが難しい今、ものづくりには新しい視点が求められています。このプロジェクトは、クリエイティブな発想で素材を実験することでデザインの可能性を広げていくことを目的としています。また、ものが生み出されるプロセスを提示していくことで、そのものの価値を感じてもらうキッカケに繋がっています。

本プロジェクトはデザインプロデューサー上野侑美が2013年に立ち上げ、今回までに31組のデザイナーが参加、9回目の展示となります。

#### Experimental Creations 開催概要

会期：2018年10月12日（金）13日（土）

10月19日（金）～28日（日）（DESIGNART 開催期間のみ連続して10日間オープンします）

11月2日（金）3日（土）9日（金）10日（土）16日（金）17日（土）

時間：12:00-20:00

Designer's Presentation & Reception：10月26日（金）18:00-20:00

会場：TIERS GALLERY（荒川技研工業オフィスビル）

東京都渋谷区神宮前 5-7-12 TIERS 3F

協力：荒川技研工業株式会社

主催・プロデュース・ディレクション：上野侑美

出展デザイナー：Bouillon、村越淳、濱西邦和、STUDIO noem / 工藤健太郎、STUDIO BYCOLOR / 秋山かおり、

and associates / 土井智喜、Studio-Y2 / 山口幸宏

グラフィックアートディレクション / デザイン：cekai / 安田昂弘

フォトグラファー：五十嵐絢哉

ご掲載・ご取材に関するお問い合わせ先

Experimental Creations 代表 上野

TEL. 090-3068-5181 / EMAIL. info@experimental-creations.com / http://experimental-creations.com

## Designers



Bouillon

共に 1987 年生まれ、2010 年に名古屋芸術大学 (SpatialDesign 専攻) を卒業し、2016 年 4 月にデザインスタジオとして Bouillon (ブイヨン) を設立。ふだん見慣れているもの・こと・ひとに丁寧に関わることで、そこに溶け込むたくさんの良さが見えてきます。そのたくさんの良さの一つ一つに「うまみ」があります。私たちは、素材のうまみを活かした料理のようにシンプルでありながらくせになるうまみのきいた暮らしを提案します。



濱西邦和

1982 年生まれ。多摩美術大学環境デザイン学科卒業後、丹青社にて店舗インテリアデザインに従事。その後、北欧 (デンマーク) にて家具デザインを学び、2015 年に Hamanishi DESIGN を設立。プロダクト・家具・インテリアの領域において、シンプルで質感の良い横断的なデザインを行う。



STUDIO BYCOLOR  
秋山かおり

東京を拠点に、色や素材の持つ力を効果的に活用するクリエイションを生み出すデザイン事務所 STUDIO BYCOLOR。千葉大学工学部デザイン工学科を卒業後、オフィス家具メーカー勤務を経て、オランダのデザイン事務所 STUDIO Samira Boon での経験を通し現在に至る。



Studio-Y2  
山口幸宏

2007 年東京造形大学インダストリアルデザイン専攻卒業。プラス株式会社ファニチャーカンパニーにてオフィス家具開発に従事したのち、渡伊。'14 年に帰国しデザインスタジオ [Studio-Y2] を主宰。家具デザインを中心とした各デザインを手がける。近年では CMF デザインに重点を置いた製品開発などに携わる。



村越淳

千葉大学工学部工業意匠学科・同大学院修了、Royal College of Art (英国王立芸術大学院) MA デザインプロダクト科修了後、takram design engineering や i.lab (イノベーション・ラボラトリー) との新製品、新規事業開発ならびに教育研究活動に従事。千葉大学大学院工学研究科特任研究員、同大学国際教育センター特任助教、東京大学 知の構造化センター特任研究員 (i.school プログラム・マネージャー) を経て、Jun Murakoshi Design 代表。



STUDIO noem  
工藤健太郎

STUDIO noem 代表。2004 年桑沢デザイン研究所卒業後、デザイン事務所にてプティックなどアパレル系のインテリアデザインに従事。その後、オフィスやショールームなど、さまざまなプロジェクトを担当。現在は商業空間、オフィスなどの空間デザインをメインに活動し、展示会の企画やプロダクトデザインも行う。出展多数。



and associates  
土井智喜

1984 年香川県生まれ。2008 年桑沢デザイン研究所卒業後、インテリアデザイン事務所勤務を経て、2011 年から and Associates として活動。2014 年から桑沢デザイン研究所非常勤講師を務める。

## Works



素材：木、鉄、ナイロン、シリコン、綿、紙、ワイヤー、アラカワグリップ

壁や天井などに設置されたレールや金物に設置することで仕様するワイヤーとグリップの関係性や、実際の使用範囲をあらためて捉え直す実験。  
建築の中で恒久的に使用されることを前提にしたグリップとワイヤーを建築という箱から独立させる事を目指した。

Position

Design: Bouillon



素材：木材、ワイヤー、アラカワグリップ

重力に抗うように細く長く伸びた線には見る者を惹きつける美しさがある。日本には線に対する美意識が高くなる素地が整っており、華道と西洋のフラワーアレンジメントを比較してみれば、その求められる美の方向性の差異は一目瞭然である。本作品は、線をプロダクトとして成立させるための実験的な試みである。不規則に折れ曲がる線をユニットの連結により生み出し、ワイヤーとグリップによる引張強度とユニットの垂直方向の圧縮強度を均衡させることで、重力に抗える繊細な存在を空間に出現させている。同コンセプトの下に様々なプロダクトのシリーズ化が検討されている。

equilibrium

Design: 村越淳



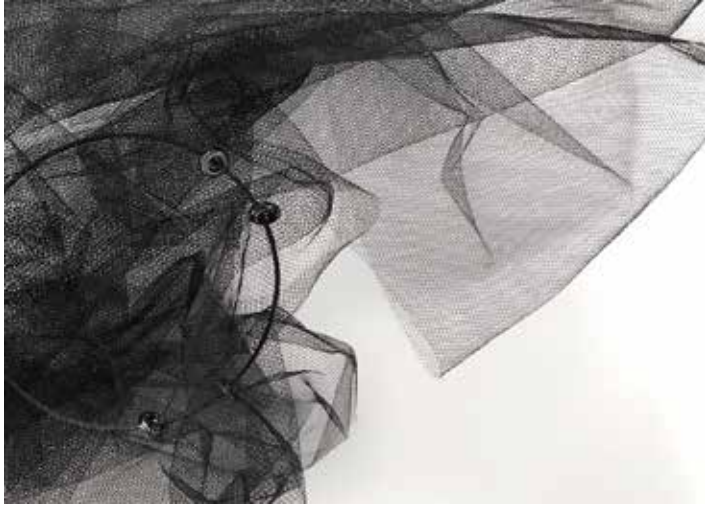
素材：木材、7セグ、ワイヤー、アラカワグリップ

古くから正確に時を刻むために使われていた振り子と、現代の厳密にカウントするデジタルの数と同調する振り子により、時間を体感的に視覚化する試み。  
17世紀ガリレオにより発見された『振り子の等時性』では、摩擦や空気抵抗の無い環境下で、1Mの長さの振り子が1往復する時間は、2秒である。長さを変えることで往復する時間は変化する。

[振り子の等時性：振幅や重さに関わらず、ふりこの1往復する時間（周期）は一定である]

And yet it moves

Design: 濱西邦和



Dress wall

Design: STUDIO noem / 工藤健太郎

素材：ナイロンチュール、ワイヤー、アラカワグリップ

“開ける事”と“閉める事”で空間を間仕切るのではなく、空気を“束ねる事”によって空間に与える影響を探る。



GRIP on the COLOR

Design: STUDIO BYCOLOR / 秋山かおり

素材：水系（ナイロン・ポリエステルなどの合成繊維、絹・綿などの天然繊維）、アラカワグリップ

ワイヤーを引張強固な樹脂素材への置き換えることより鮮やかな色による空間構成を可能とした。一般的には建築現場などで水平を取るために用いられる「水系」を用いる。水系は視認性を重視することから蛍光色が使用されることが多く、また引張強度も強いので今回の実験作品に適した素材と考えられた。水系には様々な樹脂が使用されており、合成繊維である「ナイロン」「ポリエステル」「ポリエチレン」や一方で古くから水系として使用される素材として天然素材の「純綿」や「絹」も挙げられる。今回は様々な線材とグリップの相性の実験を通し、色を活用したウォールシェルフをデザインした。



hibukuro

Design: and associates / 土井智喜

素材：紙、ワイヤー、アラカワグリップ

ワイヤーの特性である「張り」に着目し、円形にした複数のワイヤーを1つの膜に通すことで立体物をつくることを考えた。ワイヤーにグリップを取り付けることでそれぞれの円の大きさを自由に変更できるようになり、立体物全体の形状を変化させることが可能となった。この考え方をういた立体物を火袋（提灯などの紙の覆い）として展示する。プリーツ加工した紙にグリップを取り付けたワイヤーを通すことで、変形する光のオブジェを目指した。



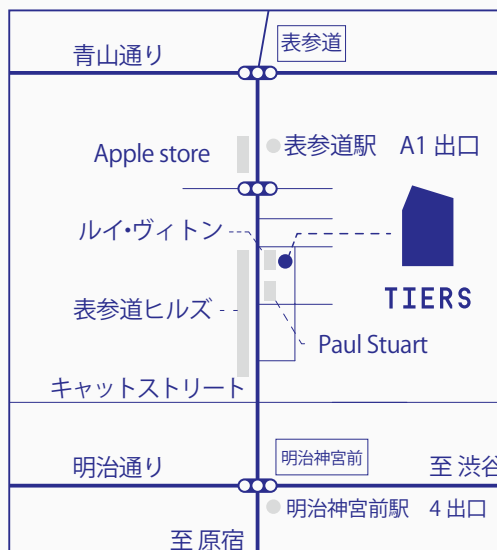
素材:木材、竹、塩ビ、アルミ板、紙、3D プリンタ、ワイヤー、アラカワグリップ

A beautiful bending はアラカワグリップの持つ特性の一つであるワイヤーの任意の位置でグリップが止まり、保持する機構に着目。板材を用い、浮遊するオブジェクトを作り出す。両端に取り付けたグリップを任意の位置に上下することで、間に挟まれた板材がそれぞれの素材の応力に伴ったしなり具合をみせる。しなることで生まれる素材表面の表情の変化を探る作品。発展的な構想としては、浮遊する照明器具になったり、パテーションとしての役割を持ったり、空間演出のインテリアとして機能するものになる。

A beautiful bending

Design: Studio -Y2 / 山口幸宏

## Venue



会場：TIERS GALLERY（荒川技研工業オフィスビル）

東京都渋谷区神宮前 5-7-12

東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」A1 出口より徒歩 3 分

東京メトロ副都心線・千代田線「明治神宮前駅」4 番出口より徒歩 5 分

JR 山手線「原宿駅」表参道口より徒歩 10 分



Experimental Creations は DESIGNART 2018 に参加します。

ご掲載・ご取材に関するお問い合わせ先  
Experimental Creations 代表 上野

TEL. 090-3068-5181/ EMAIL. info@experimental-creations.com / http://experimental-creations.com